スーパーマーケット販売統計調査資料

2018 年 5 月実績 速報版（パネル 270）
4 月実績 確報版（パネル 270）

（2018 年 6 月 21 日公表）

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に取り扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更（275 社→270 社）

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版：毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版：速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インストアベーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業（DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等）

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人　日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人　新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2018年6月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2018年5月実績　速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	89,225,257	100.0%	99.6%	98.6%
食品合計	80,529,989	90.3%	100.0%	98.8%
生鮮３部門合計	30,223,193	33.9%	100.0%	98.7%
青果	12,223,053	13.7%	99.0%	97.7%
水産	7,632,308	8.6%	99.6%	98.4%
畜産	10,367,832	11.6%	101.5%	100.1%
惣菜	9,126,342	10.2%	101.5%	99.5%
日配	17,545,984	19.7%	100.0%	99.3%
一般食品	23,634,469	26.5%	99.4%	98.4%
非食品	6,309,771	7.1%	96.0%	96.1%
その他	2,385,549	2.7%	95.9%	96.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,489,418	43	99.5%	97.7%
関東地方	32,891,779	73	100.2%	99.2%
中部地方	11,000,263	53	99.7%	99.0%
近畿地方	19,000,102	44	99.1%	98.7%
中国・四国地方	8,955,105	34	99.3%	97.3%
九州・沖縄地方	4,888,589	23	98.2%	97.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	647,907	44	93.9%	94.5%
4～10店舗	3,842,202	73	98.9%	97.0%
11～25店舗	10,287,985	64	98.3%	97.9%
26～50店舗	15,937,410	45	99.1%	98.5%
51店舗以上	58,509,753	44	100.0%	98.8%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	87,130,267
総店舗数（店舗）	7,918	店舗平均月商（万円）	11,269
総売場面積（㎡）	13,112,517	売場１㎡あたり売上高（万円）	6.8

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2018年6月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2018年4月実績　確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	87,260,612	100.0%	99.6%	98.5%
食品合計	78,648,550	90.1%	99.8%	98.6%
生鮮３部門合計	29,571,164	33.9%	99.1%	97.7%
青果	11,975,429	13.7%	98.1%	96.9%
水産	7,521,034	8.6%	97.3%	96.0%
畜産	10,074,701	11.5%	101.7%	100.2%
惣菜	8,945,039	10.3%	101.5%	99.5%
日配	16,980,114	19.5%	100.2%	99.3%
一般食品	23,152,233	26.5%	99.8%	98.7%
非食品	6,145,583	7.0%	98.6%	98.4%
その他	2,466,525	2.8%	97.6%	98.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,116,892	43	99.5%	98.1%
関東地方	32,136,731	73	99.8%	98.6%
中部地方	10,697,068	53	99.5%	98.5%
近畿地方	18,803,631	44	99.7%	99.2%
中国・四国地方	8,693,399	34	99.2%	97.2%
九州・沖縄地方	4,812,891	23	98.7%	98.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	641,602	44	95.3%	95.9%
4～10店舗	3,778,209	73	98.4%	97.0%
11～25店舗	10,048,085	64	98.2%	97.3%
26～50店舗	15,507,821	45	98.3%	97.5%
51店舗以上	57,284,895	44	100.3%	99.1%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	85,159,548
総店舗数（店舗）	7,909	店舗平均月商（万円）	11,033
総売場面積（㎡）	13,129,945	売場１㎡あたり売上高（万円）	6.6

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2018年5月エリア別気候状況

1.　5月気温の特徴：気温は全国的に高く、東日本と沖縄・奄美ではかなり高かった。

上旬：北・西日本で低く、東日本と沖縄・奄美で平年並だった。□

中旬：東・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、北日本で高かった。□

下旬：北日本と沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。□

2017年5月との比較：上旬は前年より低く、中旬はやや高く、下旬はやや低くなった。

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2018年5月			2017年5月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	-1.0	1.3	1.7	2.4	0.8	1.8	-3.4	0.5	-0.1
東北地方	-0.2	1.6	1.8	1.2	0.9	2.7	-1.4	0.7	-0.9
関東甲信地方	0.0	2.5	1.6	0.8	1.2	2.6	-0.8	1.3	-1.0
北陸地方	-0.3	1.9	1.0	0.4	1.4	2.6	-0.7	0.5	-1.6
東海地方	0.0	1.8	1.0	0.8	1.1	1.8	-0.8	0.7	-0.8
近畿地方	-0.4	1.5	1.0	1.0	1.2	1.8	-1.4	0.3	-0.8
中国地方	-0.8	1.8	1.4	1.5	1.4	1.7	-2.3	0.4	-0.3
四国地方	-0.6	1.4	0.6	1.0	0.6	1.1	-1.6	0.8	-0.5
九州北部	-0.7	2.1	1.4	1.1	0.7	1.3	-1.8	1.4	0.1
九州南部・奄美地方	-0.2	2.1	0.6	0.2	-0.3	0.3	-0.4	2.4	0.3

平年差
＋2℃以上　－2℃以上
＋1℃以上　－1℃以上

前年差
＋2℃以上　－2℃以上
＋1℃以上　－1℃以上

2.　5月日照時間の特徴：東日本太平洋側で多かった。一方、東・西日本日本海側では少なかった。

上旬：北日本と東日本日本海側でかなり少なく、西日本日本海側で少なかった。

中旬：東日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、西日本太平洋側で多かった。□

下旬：北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。西日本太平洋側でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。□

2017年5月との比較：上旬は北日本で短く、下旬は西日本を中心に短くなった。

	日照時間　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2018年5月			2017年5月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	60	93	137	138	101	77	-78	-8	60
東北地方	57	103	122	131	112	101	-74	-9	21
関東甲信地方	90	157	94	120	112	121	-30	45	-27
北陸地方	63	98	108	113	139	113	-50	-41	-5
東海地方	101	148	82	114	122	120	-13	26	-38
近畿地方	93	125	90	109	138	127	-16	-13	-37
中国地方	85	103	93	109	125	123	-24	-22	-30
四国地方	102	130	66	96	139	134	6	-9	-68
九州北部	97	108	79	98	147	141	-1	-39	-62
九州南部・奄美地方	97	139	66	87	134	132	10	5	-66

平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　－50%以下
＋25～49%　－25～-49%

3.　5月降水量の特徴：北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側と東・西日本で多かった。

上旬：北日本太平洋側と東・西日本でかなり多く、北日本日本海側で多かった。□

中旬：北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側と東日本日本海側で多かった。□

下旬：北日本日本海側と東日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。

2017年5月との比較：上旬から中旬にかけてかなり多く、下旬は北海道・東北地方を除きやや多くなった。

	降水量　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2018年5月			2017年5月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	189	138	56	19	80	107	170	58	-51
東北地方	155	287	54	24	114	82	131	173	-28
関東甲信地方	286	82	62	29	83	61	257	-1	1
北陸地方	182	136	107	53	33	58	129	103	49
東海地方	265	91	63	36	57	55	229	34	8
近畿地方	185	125	102	23	59	67	162	66	35
中国地方	206	116	78	37	24	33	169	92	45
四国地方	235	65	74	45	97	62	190	-32	12
九州北部	211	56	45	44	101	14	167	-45	31
九州南部・奄美地方	205	53	121	85	160	25	120	-107	96

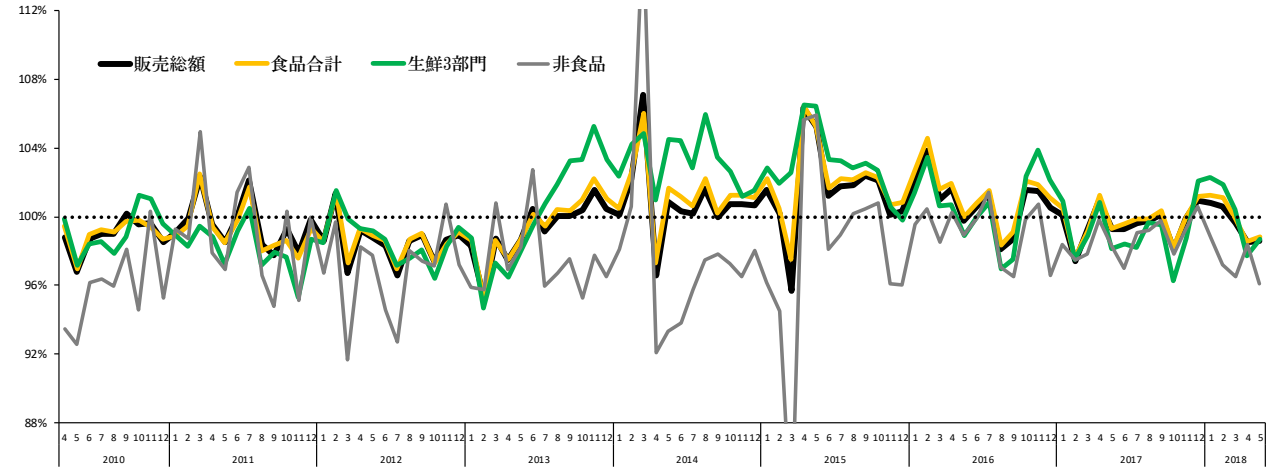
平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　－50%以下
＋25～49%　－25～-49%

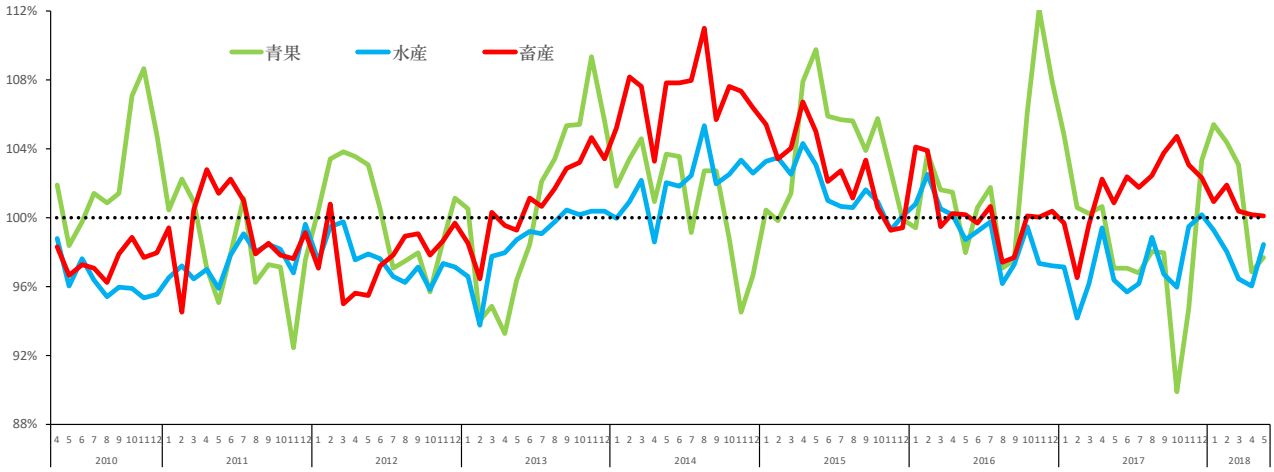
気象庁ホームページ・報道発表資料「5月の気候」参照
平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計（パネル270） 既存店前年同月比推移　2010年4月～

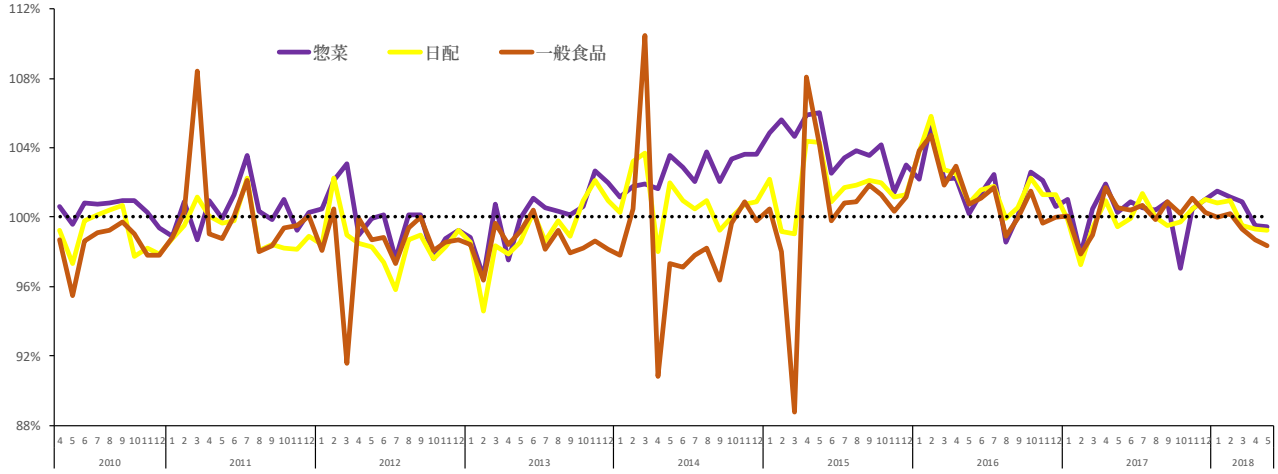
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2018年4月までは確報版による前年同月比、2018年5月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2018 年 6 月調査結果（5 月実績）
(2018 年 6 月 21 日公表)

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について
- 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの５段階で評価
- 前年同月を 100 とした当月の値を調査　※2014 年 4 月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、
- 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの５段階で評価
- 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI（Diffusion Index）の算出方法

回答構成比（%）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善＋0.5・やや改善＋0.25・変わらない±0 ・やや悪化－0.25・かなり悪化－0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ２～３ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで５段階で評価
- 今後２～３ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの５段階で評価

景況感 DI（Diffusion Index）の算出方法

回答構成比（%）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善＋1.0・やや改善＋0.75・変わらない＋0.5 ・やや悪化＋0.25・かなり悪化＋0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「50」

一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人　新日本スーパーマーケット協会

6 月調査（5 月実績）結果概況

景気判断 DI は現状・見通しともに 2 か月連続で一段の悪化

5 月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は前月から-2.0 の 41.6、見通し判断は前月から-2.1 の 39.8 となり、どちらも 2 か月連続で一段の悪化となった。

経営動向調査では、売上高 DI が-17.7、収益 DI は-10.3 と共に 2 か月連続の二桁のマイナスとなった。食品仕入原価 DI と生鮮仕入原価 DI はわずかなプラスではあるが、販売価格 DI-2.1、客単価 DI-0.1 とマイナス圏で低迷した。加えて来客数 DI が-18.6 と二桁のマイナスが続いており、すべての DI が弱含みの状況となっている。

カテゴリー動向調査では、相場が低下した青果 DI が-14.5、やや改善傾向もみられたものの水産 DI が-14.0 と大きく低迷した。来客数減や前年に比べて低下した気温によりすべてのカテゴリーで DI がマイナスとなった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、店舗周辺地域景気動向 DI のみ比較的高水準を維持しているものの、他の DI はすべて悪化が継続しており、スーパーマーケットにおけるマインドの悪化が顕著となっている。

前月に続き、競合環境が厳しさを増すなかで来客数の低迷が長期化しており、生鮮相場の安定で客単価の低下も見られるようになっている。他業態の参入が続く食品市場では価格競争が激しく、厳しい経営環境が続いている。業界の競争優位性を再確認し、来客数減に歯止めかけ、客単価上昇へのきっかけを見出す施策に期待したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：４１．６（－２．０）	当月：４２．０（－１．１）	当月：３９．８（＋０．１）	当月：４５．７（－０．６）
前月：４３．６	前月：４３．１	前月：３９．７	前月：４６．３

見通し判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：３９．８（－２．１）	当月：４２．０（－１．８）	当月：３８．２（＋０．３）	当月：４５．０（－１．４）
前月：４１．９	前月：４３．８	前月：３７．９	前月：４６．４

経営動向調査　経営状況

売上高DI	客単価DI	来客数DI
当月：－１７．７（－２．６）	当月：－０．１（＋２．５）	当月：－１８．６（－２．３）
前月：－１５．１	前月：－２．６	前月：－１６．３

収益DI	販売価格DI	生鮮品仕入原価DI	食品仕入原価DI
当月：－１０．３（－０．８）	当月：－２．１（－０．５）	当月：１．０（＋２．３）	当月：２．９（－０．４）
前月：－９．５	前月：－１．６	前月：－１．３	前月：３．３

カテゴリー動向

青果DI	水産DI	畜産DI
当月：－１４．５（－１．１）	当月：－１４．０（＋５．５）	当月：－２．５（－１．５）
前月：－１３．４	前月：－１９．５	前月：－１．０

惣菜DI	日配DI	一般食品DI	非食品DI
当月：－３．９（±０）	当月：－９．０（－１．９）	当月：－１０．３（－０．５）	当月：－１３．８（－２．６）
前月：－３．９	前月：－７．１	前月：－９．８	前月：－１１．２

（）内は前月 DI との増減、赤字はマイナス

6 月調査（5 月実績）結果詳細　Ⅰ．経営動向調査（2011 年 4 月～）

1.　売上高 DI

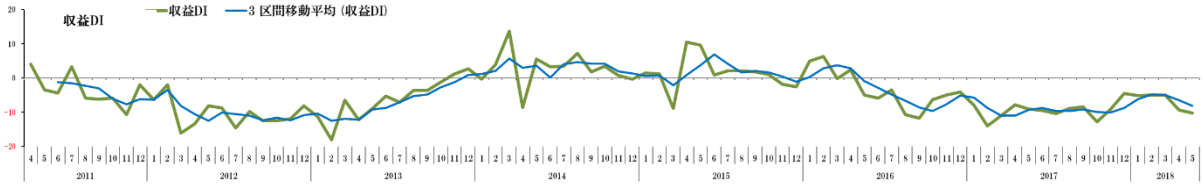
5 ヵ月連続低下となり、二桁マイナス水準で低迷が続く

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	13.3	48.8	24.1	12.8	1.0	-15.1
売上高（当月）	**16.5**	**47.8**	**26.4**	**8.8**	**0.5**	**-17.7**

2.　収益 DI

小幅な低下傾向続く

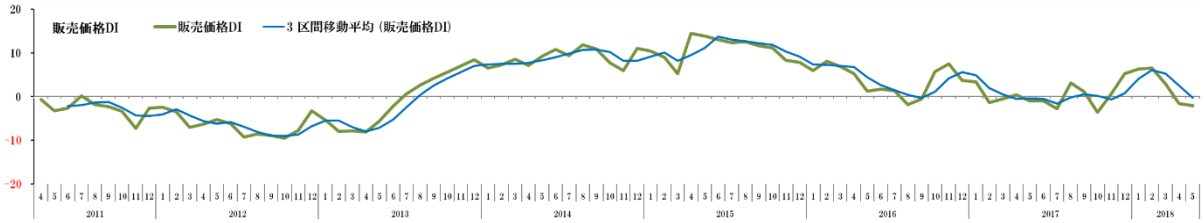
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	9.5	42.3	28.4	16.4	3.5	-9.5
収益（当月）	**9.6**	**40.7**	**32.2**	**16.4**	**1.1**	**-10.3**



3.　販売価格 DI

マイナス圏での推移も大きな変化はなし

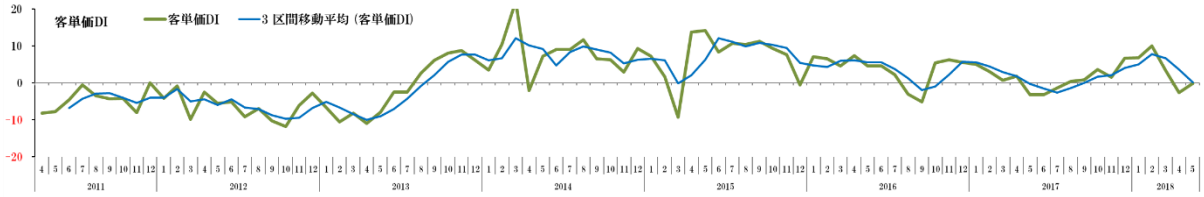
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.5	19.4	66.7	12.9	0.5	-1.6
販売価格（当月）	**0.0**	**20.0**	**68.3**	**11.7**	**0.0**	**-2.1**



4.　客単価 DI

わずかに上昇し、マイナス幅を縮小

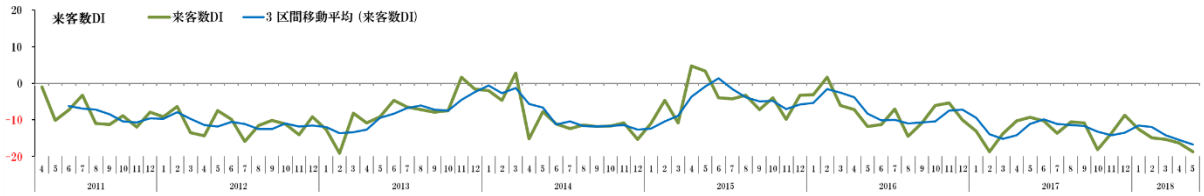
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.5	29.1	47.8	21.7	0.0	-2.6
客単価（当月）	**1.7**	**23.9**	**47.8**	**26.7**	**0.0**	**-0.1**



5.　来客数 DI

二桁マイナス水準が継続し低迷

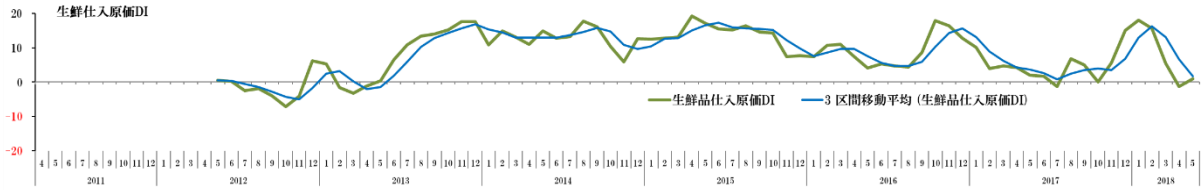
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数（前月）	11.5	53.5	24.0	10.5	0.5	-16.3
来客数（当月）	**14.4**	**50.6**	**30.0**	**5.0**	**0.0**	**-18.6**



6.　生鮮仕入原価 DI

わずかに上昇しプラス圏に

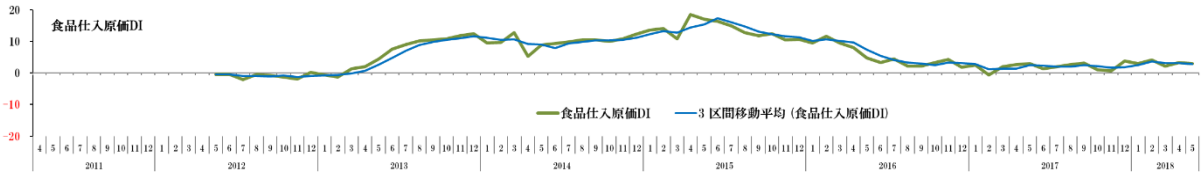
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価（前月）	4.1	19.8	54.3	20.8	1.0	-1.3
生鮮仕入原価（当月）	**1.1**	**19.7**	**55.1**	**22.5**	**1.7**	**1.0**



7.　食品仕入原価 DI

わずかなプラス圏での横ばい推移

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価（前月）	3.5	6.0	66.0	23.0	1.5	3.3
食品仕入原価（当月）	**1.7**	**10.1**	**63.7**	**24.0**	**0.6**	**2.9**

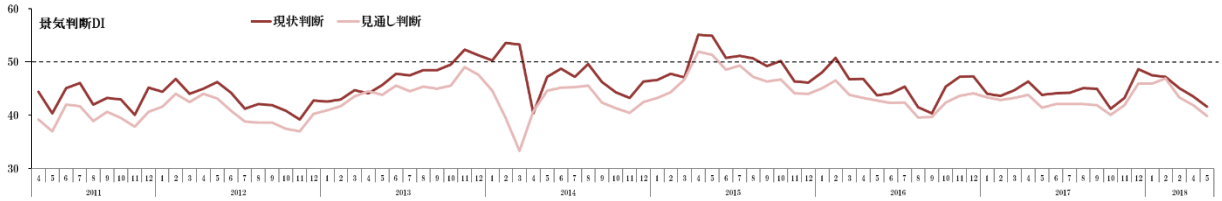


Ⅱ．景況感調査（2011 年 4 月～／周辺地域景気判断のみ 2010 年 4 月～）

1． 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に前月に続き一段悪化

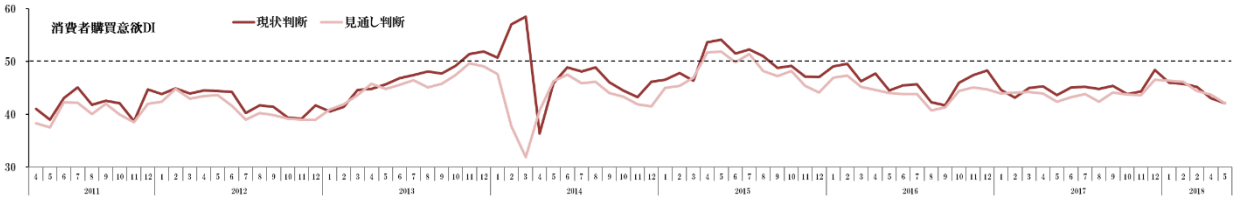
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	1.0	31.7	59.9	6.9	0.5	43.6
【現状】景気判断（当月）	**3.8**	**29.7**	**62.6**	**3.8**	**0.0**	**41.6**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	2.5	33.8	57.2	6.5	0.0	41.9
【見通し】景気判断（当月）	**4.4**	**35.7**	**56.0**	**3.8**	**0.0**	**39.8**



2． 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に前月に続き一段悪化

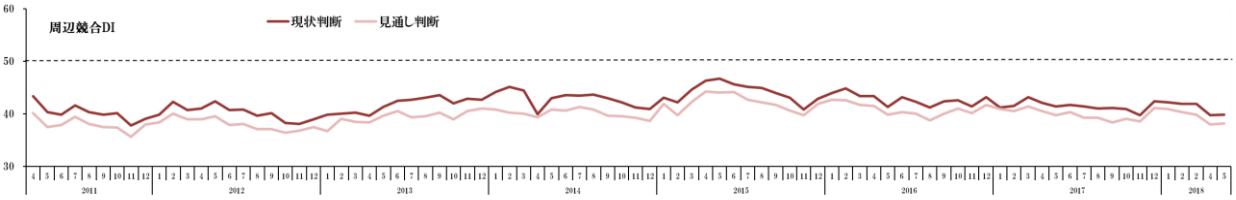
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.5	31.2	63.9	4.5	0.0	43.1
【現状】購買意欲（当月）	**1.1**	**32.4**	**63.7**	**2.7**	**0.0**	**42.0**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	0.5	28.9	66.2	4.0	0.5	43.8
【見通し】購買意欲（当月）	**1.1**	**31.9**	**64.8**	**2.2**	**0.0**	**42.0**



3． 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に低位横ばい推移が続く

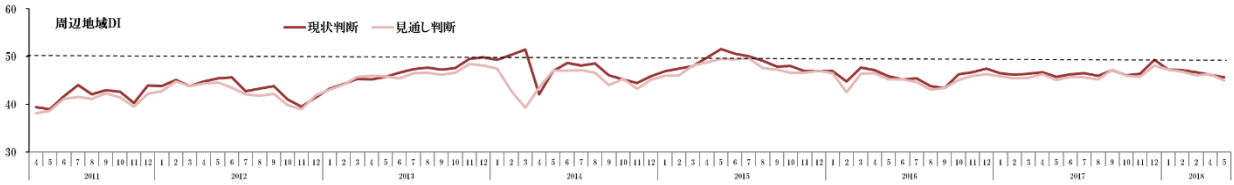
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	4.5	33.2	61.4	1.0	0.0	39.7
【現状】競合状況（当月）	**4.4**	**34.1**	**59.3**	**2.2**	**0.0**	**39.8**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	6.5	36.3	56.2	1.0	0.0	37.9
【見通し】競合状況（当月）	**7.1**	**33.5**	**58.8**	**0.5**	**0.0**	**38.2**



4.　中核店舗周辺地域景気判断 DI

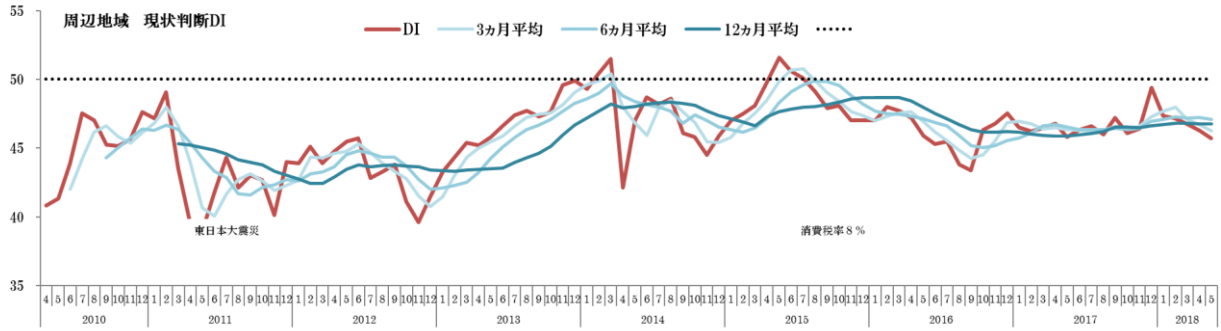
小幅に悪化も他の景気判断に比べ高水準は維持

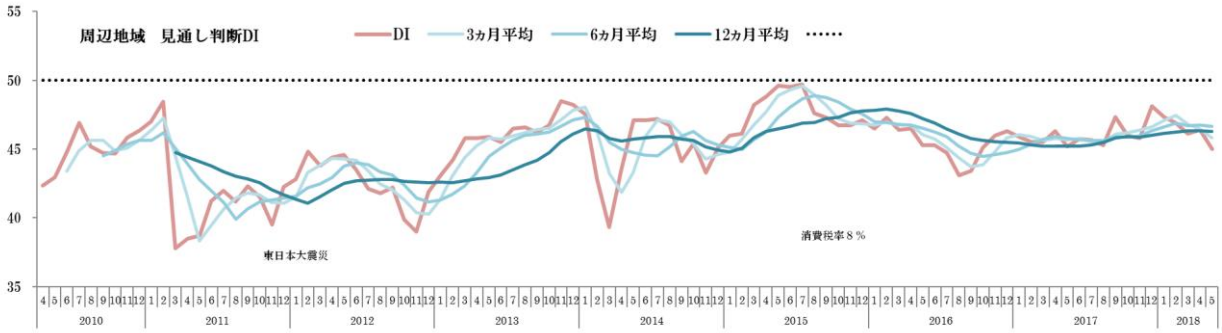
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気（前月）	0.0	17.4	80.1	2.5	0.0	46.3
【現状】地域景気（当月）	**1.1**	**16.1**	**81.7**	**1.1**	**0.0**	**45.7**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気（前月）	0.0	18.0	78.5	3.5	0.0	46.4
【見通し】地域景気（当月）	**1.1**	**18.3**	**80.0**	**0.6**	**0.0**	**45.0**



※長期傾向（2010 年 4 月～）

11 年 3 月の東日本大震災後低迷を続けていた DI は、12 年 11 月から 16 ヵ月にわたり改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015 年 5 月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断 DI は 51.6 にまで達した。しかしこれをピークとし、その後 15 ヵ月にわたり悪化傾向が続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18 年に入り悪化傾向が続き、5 月には移動線付近を下回る水準まで低下した。

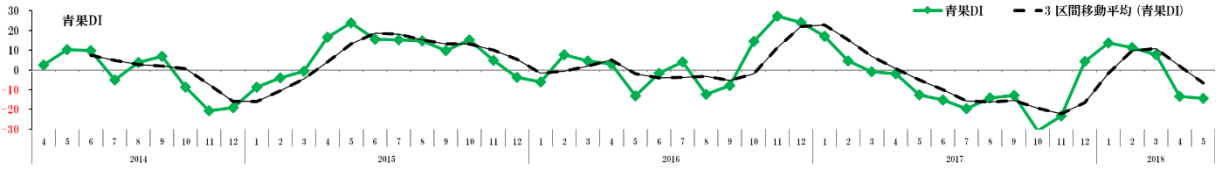




Ⅲ.カテゴリー別動向

1.　青果 DI：-14.5（不調）

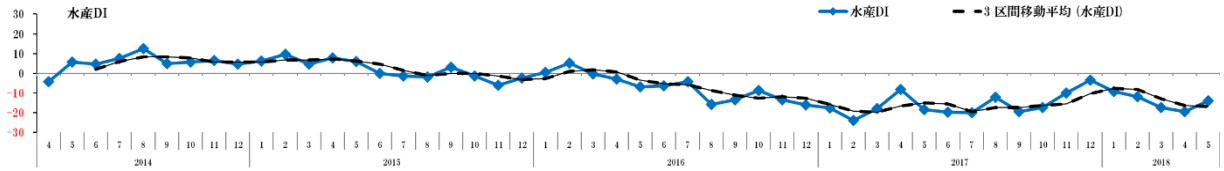
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	16.0	41.2	24.7	16.5	1.5	-13.4
青果（当月）	**13.9**	**45.1**	**26.6**	**13.9**	**0.6**	**-14.5**



野菜相場が前年より下落しており、販売点数増加に向けて取り組みを強化したものの、不調となった。なかでもジャガイモや玉ねぎは下落幅が大きく影響が受けた。気温上昇によりトマトなどのサラダ商材の動きはよかった。果物類ではカットスイカやメロンが好調な一方で柑橘類が不調であった。輸入果物ではキウイフルーツやバナナを好調にあげる店舗が多かった。

2.　水産 DI：-14.0（不調）

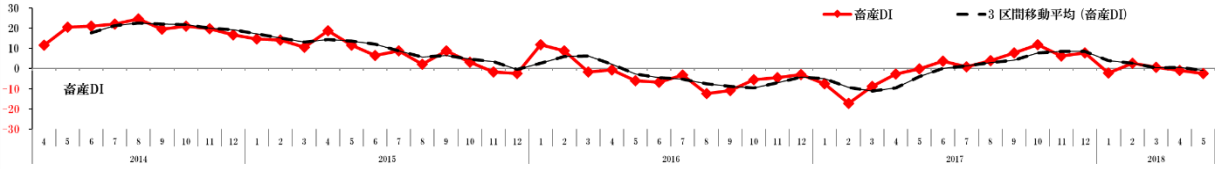
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	17.5	52.1	22.2	7.2	1.0	-19.5
水産（当月）	**13.9**	**43.4**	**30.6**	**9.2**	**2.9**	**-14.0**



未だ入荷不足や相場の高騰が続いているが、一部で水揚げ量の回復がみられる魚種もあり、売上が回復しつつある店舗もみられた。一方で、カツオは例年より多いアニサキスの影響を考慮して、保健所の指導が強化されていることもあり、積極的に販売できず、冷凍やタタキに切り替える店舗もみられた。前年好調だったうなぎは、今年相場が高騰しており苦戦している。アニサキス報道から 1 年が経過したことで刺身類は前年比で好調となった店舗もみられた。

3.　畜産 DI：-2.5（やや不調）

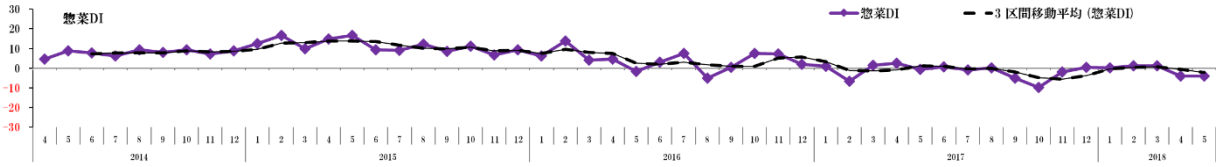
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	5.2	27.8	38.7	22.7	5.7	-1.0
畜産（当月）	**5.8**	**29.8**	**38.0**	**21.1**	**5.3**	**-2.5**



GW 期間は高単価のステーキや焼肉用牛肉が好調となった店舗もあったが、気温の低下により伸び悩んだ地域もあった。やや相場の上昇している豚肉は豚しゃぶ用を中心に好調とする店舗が多い。鶏肉はサラダチキンが好調を維持しているものの、単価が下落しており伸び悩んだ。ハムやソーセージなどの加工肉は不調とする店舗が多い。

4.　惣菜 DI：-3.9（やや不調）

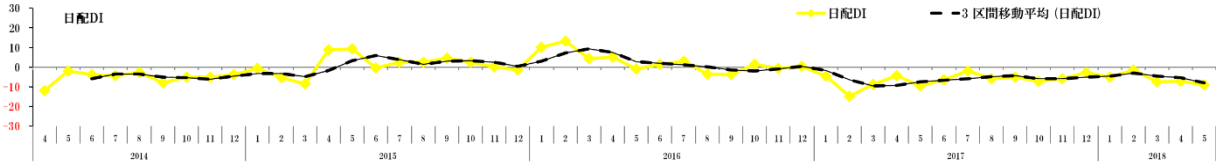
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.2	33.2	40.0	19.5	3.2	-3.9
惣菜（当月）	**4.7**	**30.4**	**43.9**	**18.1**	**2.9**	**-3.9**



月の前半は伸び悩んだものの、気温の上昇により米飯類や涼味惣菜（麺類）、おつまみ商材の動きがよかった。一方で揚げ物は苦戦した。旬の食材使った天ぷらは引き続き好調となった。アニサキス報道から 1 年が経過したことで寿司類は持ち直しをみせた店舗もみられた。作り立てや店内加工惣菜が好調とする店舗がある一方で、人手不足で十分に製造に対応ができない店舗もみられた。

5.　日配 DI：-9.0（やや不調）

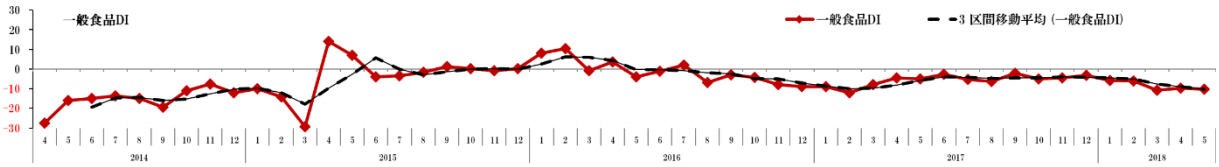
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.7	36.3	36.8	19.2	1.0	-7.1
日配（当月）	**7.0**	**37.2**	**43.0**	**10.5**	**2.3**	**-9.0**



前年比較で気温が低くなった地域では、アイス、飲料など涼味系商品の動きが悪かった。報道により特需となっている納豆は単価も上昇しており、引き続き好調となった。昨年不調だったパン類は好調とする店舗が多い。牛乳やヨーグルトなどの乳製品は好不調まちまちの判断となっている。総じて前年との気温差により地域によって好不調のカテゴリーが異なる状況となっている。

6.　一般食品：－10.3（不調）

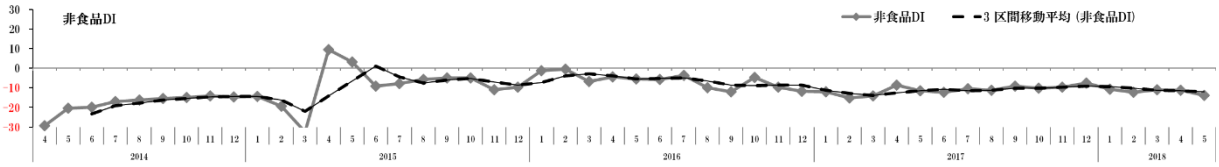
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	8.8	36.6	40.2	13.9	0.5	-9.8
一般食品（当月）	**6.3**	**40.8**	**42.0**	**9.8**	**1.1**	**-10.3**



日配カテゴリーと同様に地域により前年との気温差で好不調のカテゴリーが異なる結果となった。前年より気温が低下した地域では、飲料や涼味関連商材の動きが悪かった。ビールは前年駆け込み需要の反動減が大きかった。米類は単価が上昇しており引き続き好調が続いている。品不足で特需のあったスナック類にも反動減がみられた。調理酢やオリーブオイルが好調なった店舗もみられた。

7.　非食品 DI：-13.8（不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	11.7	36.7	38.3	11.2	2.1	-11.2
非食品（当月）	**15.5**	**36.9**	**38.1**	**6.5**	**3.0**	**-13.8**



前年との気温差により、夏物商材が不振となったほか、特売商品の一部に動きがよいものもあるが、タバコの落ち込みが続いているほか、ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競争の影響を大きく、全体的に伸び悩みをみせた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：　～ 20　　好調：　20 ～ 10　　やや好調：10 ～ 0
やや不調　：　0 ～ -10　　不調：-10 ～-20　　かなり不調：　-20～

2018 年 6 月調査（5 月実績）キーワード TOP3

1. 競合状況（来客数減・価格競争）
2. ビール類反動減
3. 月前半（GW 期間）の気候（悪天候・気温低下）

スーパーマーケット景気動向調査　集計数

5 月実績速報版　182 社
4 月実績確報版　203 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局　tokei@super.or.jp